

本事例の基礎データ

カテゴリ	情報モラルを育成する指導方法		
学校種	小学校	事例提供者	八王子市立横川小学校
学年	6年生	教科等	学級活動
単元名	それって大丈夫？危険かどうか考えよう		
主な ICT 機器	タブレット PC(キーボード付き Chrome OS 機/一人 1 台)		
授業の概要	インターネット上で起こる危険について知り、身を守る方法を考える。		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	情報モラル・セキュリティ	STEP3	・情報を守るための基本的な方法を知り、使用できる

本事例における教育の情報化について

ポイント 1	<p>Google Classroom の活用</p> <p>児童は各学級の Classroom に所属し、授業の課題や係活動に活用している。本事例では、児童が取り組む課題や、資料の配布をする際に使用した。</p>
ポイント 2	<p>Google サイトを活用した資料提示</p> <p>実際に子どもたちが情報と出会う場面を想定し、Google サイト機能を活用し、個人情報の入力を誘導する偽サイトを作成し、提示した。</p>
ポイント 3	<p>Jamboard やスライド内での共有・共同編集機能の活用</p> <p>Jamboard やスライドは、複数で共有することができ、共同編集ができる。本事例では学級全体で共有し、グループや個人での考えを互いに見合い、自分の考えを深められるようにした。</p>

本時の流れ

段階	● 主な学習活動・児童の活動	○ 支援・留意点 ☆ 評価
導入	<p>● 間違った情報を正しく判断していく必要があることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お金がもらえるという SNS のメッセージを受け取り、その後どうするかを考える。 <p>● 自分の行動を振り返り、正しく情報を扱う必要があることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真の撮り方、個人情報の取り扱い方について振り返る。 	<p>○ URL をクリックすると、「会員登録が完了し、支払いが発生、解約には個人情報を入力する必要がある」と書かれたサイトへと移動するようにしておく。</p> <p>○ 自分の何気ない行動が危険につながる可能性があることに気付き、自分の課題として、身を守ることが必要であることを感じられるようにする。</p>
	<p>インターネット上で起こる危険を知り、身を守る方法を考えよう。</p>	
展開	<p>● 資料をもとに、どのような行動が危険につながるかその原因を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を提示し、危険につながっているところはどこかを考え、Jamboard で意見を共有し、検討する。 <p>① SNS 上の誤った情報 ② オンラインゲームでの会話 ③ 写真の撮り方</p> <p>● 資料から考えたことをもとに、危険を回避するための具体的な方法についてまとめる。</p>	<p>○ Jamboard に、赤色は「気付いたこと」、青色は「考えたこと」、黄色は「疑問点」で意見を共有するように指示する。</p> <p>○ 意見を共有する際には、自分の考えとの共通点や相違点を意識しながら聞くように指示する。</p> <p>☆ 様々な情報や場面が危険につながる原因やそれを回避するための方法について知ることができる。【知識・技能】</p>
まとめ	<p>● 本時の学習を振り返り、今後のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これから、どんな時にどのような行動をするのか、具体的なめあてや実践方法を決めて、スライドに記入する。 	<p>○ 具体的な目標になるように「～の時に、○○をする」という言葉を提示して、当てはめて考えるよう指示する。</p>

授業の実際

【ポイント1】 Google Classroom の活用



Classroom では、授業で使う資料や課題のファイルを児童全員の端末に配布することができる。資料を手元で見ることができ、課題は配布する際に共有することで共同編集が可能となるので、互いに考えを見合い、深めることができる。

【ポイント2】 Google サイトを活用した資料提示



Google には、簡単にサイトを作成することができる機能がある。実際の場合を想定し、個人情報を入力を誘導する偽サイトを作成し、資料として提示した。URL もあるので、リンクからそのサイトにとぶことも体験させた。

【ポイント3】 Google Jamboard、スライド内での共有・共同編集機能の活用



Jamboard やスライドのファイルを共有することで、共同で編集し、互いの考えを見合うことができる。学習を進めながら、様々な考えに触れることで、本時の学習内容についての考えを広げ、深めることができた。

今後に向けて

- Google サイトを作成し、資料として提示する際には、共有の設定に気を付ける必要がある。設定によっては児童の端末で見られないため、事前の点検が必要である。
- Jamboard やスライドの共有機能を用いたやりとりの際、PC の画面を見ながら児童同士が対話していた。PC を使用しないグループ活動よりも話が活発ではないグループもあったため、グループ活動の際は、グループで 1 台にするなどの工夫が必要である。